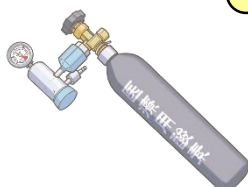


職員全体勉強会

日時: 2026年3月18日(水)

3月は

医療ガスについて



開催しました

講師: 北島酸素株式会社 松尾 茂氏

医療の現場では、患者さんの呼吸を助けたり、手術や検査を安全に行うために、さまざまな種類のガスが使われています。これらの医療ガスは、普段は目に触れることのない“医療を支える重要な設備”のひとつです。

医療ガスの性質を正しく理解し、安全に取り扱うためには、専門的な知識と継続的な学びが欠かせません。この研修は医療現場の安全を守るための大切な研修として位置づけられています。



1. 医療ガスの種類と性質



病院で特によく使用されるのは、酸素・二酸化炭素(炭酸ガス)・圧縮空気・吸引(陰圧)です。これらは、呼吸管理、処置、検査など、患者さんの治療を支えるために欠かせない設備です。

・酸素の支燃性による火災リスク

酸素は燃えやすい物質ではないが、周囲のものを燃えやすくする性質があり、取り扱いには特に注意が必要。

・圧縮空気(医療用空気)

院内の配管を通じて供給されており、人工呼吸器など多くの医療機器で使用されます。

・二酸化炭素の用途

主に内視鏡検査などで使用されるガスで、不燃性であることが大きな特徴です。

医療現場では、酸素などの支燃性ガスと区別して扱う必要があります。

・吸引(陰圧)の用途

痰の吸引や処置に欠かせない。唯一ポンペで供給できない陰圧ガスです。

2. 医療ガスの取り扱いと注意点

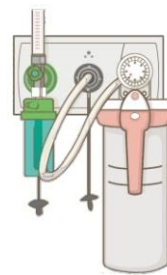
・ボンベ交換時の確認手順

誤接続を防ぐための識別、配管設備の基本構造を理解する

バルブ操作の正しい手順、保管環境の安全基準

講師からは、「慣れた作業ほど事故が起こりやすい」という言葉があり、日常業務の中で見落としがちなポイントを再確認しました。

特に、誤接続防止のための規格(PIN方式など)についての説明は、理解が深まる内容となりました。



3. ヒヤリハット事例から学ぶ“気づき”の重要性

講義の中盤では、実際に医療現場で発生したヒヤリハット事例が紹介されました。

- 酸素と笑気の誤接続
- ボンベ残量の確認不足
- 配管の誤認識による供給停止
- ラベルの貼り間違いによる混乱

これらの事例は、重大事故に至らなかったものの、一歩間違えば患者の生命に関わる可能性がある内容ばかりです。参加者は「自分の病棟でも起こり得る」と真剣に耳を傾けていました。

4. まとめ

今回の講習会は、医療ガスの安全管理を“個人の知識”から“組織全体の取り組み”へと広げるきっかけとなりました。

医療ガスは、患者の生命を支える重要な医療資源である一方、取り扱いを誤ると重大事故につながる危険性を持っています。

当院では、今回の講習会で得た学びを日々の業務に活かし、安全で質の高い医療提供を継続してまいります。